

「タイル」名称統一100年記念

企画展

「タイル」までのプロローグ

－手わざの時代の陶磁製建築装飾

本展は、手わざを生かした明治、大正時代の敷瓦や陶磁板などを紹介することによって、100年前に起きた「タイル」の变革と、その序章（プロローグ）に焦点をあてる企画展です。

1922年4月12日、平和記念東京博覧会の会場で開催された全国タイル業者大会において、様々な呼称が付されていた建築を被覆するやきものが、「タイル」と呼ばれることになりました。2022年はその年からちょうど100年にあたります。この出来事は、単なる名称の統一にとどまらず、手工芸的な位置づけで作られてきた様々な陶磁器製の建築装飾が、工業的な基準をもつ「タイル」へと転換していったことを表す、タイル業界における大きな事件でした。

殖産興業を推進する明治政府は、万国博覧会に掛軸や障屏画同様の繊細な絵付けを施した陶磁器を出品して好評を得ました。瀬戸と美濃で製造されたゆがみのない陶磁板はその技術力の高さを感じさせます。ドイツ人のワグネルが開発した「旭焼」のタイルも、こうした日本の絵画表現を最大限に生かした究極の装飾タイルというべきものでした。一方、敷瓦の製造が盛んになった瀬戸では様々な銅板転写の図案が考案され、京都の陶磁器試験所では、陶芸の技術を生かした日本的なタイルや建築装飾の表現が研究されています。しかし、こうした手工芸的な「タイル」はその後、効率的な機械製造による製品に凌駕されていくのです。

統一される前の時代の「タイル」。日本的な表現を摸索し、試行錯誤を重ね、当時の技術の粋を集めて作られていたことを感じていただければ幸いです。



旭焼 釉下彩装飾タイル
紫木蓮に大鷹図
滋賀県立陶芸の森蔵

会期：2022年4月9日～9月4日
 休館日：月曜日（休日の場合は翌平日）
 開館時間：午前9時～午後5時
 （入館は午後4時30分まで）

会場：多治見市モザイクタイルミュージアム
 3F ギャラリー

主催：多治見市モザイクタイルミュージアム
 後援：美濃焼タイル振興協議会、全国タイル工業
 組合タイル名称統一100周年記念委員会

観覧料：一般310円、団体250円（常設展観覧料でご覧いただけます）
 高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方及び付き添い1名様無料



※関連企画も計画中。詳しくはホームページへ。

【特集展示】旧蘇東銀行と日本タイル工業



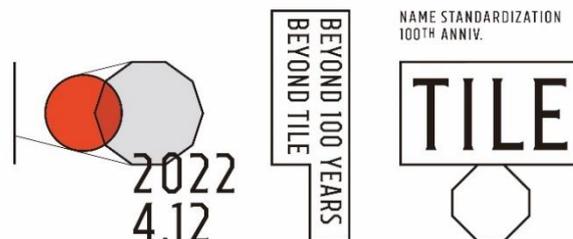
旧蘇東銀行は、中島醸造（瑞浪市）の中島亥十郎が明治15年に創設したとされ、大正期に中島醸造のわきに建てられた洋館が、その本店であったと言われていました。昨年土岐橋の架け替え工事に伴って解体されましたが、一人の高校生の声によって、一部のタイルが保存され、同時に日本タイル工業株式会社の製品が使われていたことが判明しました。当館のコレクションになったそのタイルによって、地域の歴史を伝える重要性を感じていただければと思います。

※タイル名称統一100周年記念プロジェクト

全国タイル工業組合が、「タイル名称統一100周年記念プロジェクト」を発足し、特設サイトとプロジェクトを象徴する100周年記念ロゴマークを制作しました。

多治見市モザイクタイルミュージアムは、「タイル名称統一100周年記念プロジェクト」を応援するとともに、地元タイル産業関係者の皆様による様々な取り組みを情報発信してまいります。

（※巡回展「日本のタイル100年」9月17日から多治見会場にて開催予定）



お問い合わせ先：



多治見市モザイクタイルミュージアム
 〒507-0901 多治見市笠原町 2082-5
 電話 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114
 URL: <http://mosaictile-museum.jp>